

## 豊かなふれあいやボランティア活動を通して「豊かな心」を育む教育 山口県立熊毛北高等学校

### 学校の概要

#### 学校規模

学級数：9学級

生徒数：335人

教職員数：39人

#### 体験活動の観点から見た学校環境

本校のある熊毛町は、山口県の東部、温暖な気候に恵まれ、温泉とナベツルの飛来地として知られている。田園風景の広がる中で、近年、宅地化が進んでいる。史跡も多く、本校は、二百年前に士民教育のために創立された郷校「徳修館」の伝統を受け継いでいる。

丘の上に建つ校舎は木々に囲まれ、生徒が登下校する130段の階段の周りには春にはツツジの紅白の花が咲き誇る。花と緑に囲まれた美しい環境にある。

本校は、生徒一人一人の個性の尊重とともに集団の秩序を大切にする校風をもっている。普通科と家政科を併設し、女子の割合が7分の6程度と多い。

近隣接の市町から、電車と自転車を使得って登校してくる生徒も多くなり、学校の活性化を模索する中で、地域との連携の大切さの認識を深め、地域へ開かれた学校づくりを進めているところである。

#### 連絡先

〒745-0631

山口県熊毛郡熊毛町大字安田

字追迫1-2

電話：0833-91-0658

FAX：0833-91-0639

ホームページ：

<http://www.ymg.ed.jp/~kumagekita-h/>

### 体験活動の概要

#### 活動のねらい

学校全体で、豊かな心や他人を思いやる精神の涵養を図りたい。そのためには、地域と連携し、豊かなふれあいや体験をすることが必要である。

人とのふれあいや、協力してボランティア活動を行う様々な場を設定することによって、「豊かな心を育む学校づくり」を推進したい。

#### 主な活動内容・方法(位置付け・期間等)

- 地域や校内の美化・清掃奉仕活動
- ・全校生徒による町内クリーンアップ活動、地下道の清掃奉仕活動(特別活動)
- ・全校生徒による毎日のゴミの分別収集授業での施設等の訪問体験活動
- ・特別養護老人ホーム訪問(家政科の授業や総合的な学習の時間)
- ・保育園での保育実習(家政科の授業)
- 生徒会や家庭クラブによる奉仕活動
- ・交通安全マスコットの製作・配布
- ・敬老の日のプレゼント
- 個人によるボランティア活動
- ・養護学校サマースクール参加(夏休み)
- ・社会福祉協議会主催行事等への参加体制等の工夫

全校生徒を自主的に活動させる工夫  
校外での活動時の保険加入等安全対策  
活動の成果等

生徒会の委員会活動や家庭クラブ活動などで、生徒主体の活動が活発化した。

町内の清掃奉仕活動などが地域で評価され、学校と地域の結びつきが深まった。

生徒の心の中に、自然な形でボランティアの精神が芽生え広がってきている。

## 1 活動に関する学校の全体計画

### (1) 活動のねらい

他人への思いやりや、自然環境を大切にすることを育てるためには、豊かなふれあいや体験が欠かせない。生徒たちが仲間や地域の人たちとふれあい、協力して奉仕活動・ボランティア活動を行う様々な場を設定することによって、学校全体で「豊かな心」を涵養したい。

そして、「一人一人を大切に」という本校の生徒指導の基本方針に沿って、教科・科目の学習や特別活動など、学校全体で取り組むことによって、学校の活性化を図りたい。

### (2) 全体の指導計画

#### ア 活動の名称

「豊かなふれあいやボランティア活動を通して『豊かな心』を育む教育」

#### イ 実施学年

学校行事は全学年，授業は対象の学科・学年，  
その他の活動は，学年を問わず自主的な参加

#### ウ 活動内容

##### (ア) 地域や校内の美化・清掃奉仕活動

町内クリーンアップ活動，地下道の清掃奉仕活動，毎日のゴミの分別収集など

##### (イ) 授業での施設等の訪問体験活動

特別養護老人ホームや保育園で体験活動

##### (ウ) 生徒会や家庭クラブのボランティア活動

交通安全キャンペーンでのマスコット配布，家庭クラブで手作りの小物を敬老の日に町内の高齢者にプレゼント，リングブルを回収し，社会福祉協議会へ寄付

##### (エ) 個人によるボランティア活動

夏休み中に養護学校のサマースクールや町の社会福祉事業にボランティアとして参加

#### エ 教育課程上の位置付け

(ア) 地域や校内の美化・清掃奉仕活動：学校行事等の特別活動

(イ) 授業での施設等の訪問体験活動：家政科の授業や総合的な学習の時間

(ウ) 生徒会や家庭クラブ等のボランティア活動：生徒会・家庭クラブの特別活動

#### オ 実施時期

(ア) 地域や校内の美化・清掃奉仕活動：町内クリーンアップ活動は，毎年11月中旬の土曜日，地下道の清掃活動は1学期中旬に実施

(イ) 授業での施設等の訪問体験活動：家政科の授業の中で，各学期に数回実施

(ウ) 生徒会や家庭クラブのボランティア活動：交通安全キャンペーンは毎年9月下旬

(エ) 個人によるボランティア活動：養護学校のサマースクールは夏休み中に実施

#### カ 活動場所

##### (ア) 地域や校内の美化・清掃奉仕活動

町内クリーンアップ活動は学校周辺の主に通学路で，また，地下道の清掃奉仕活動は，本校前の県道を横断する地下道で行う。

##### (イ) 授業での施設等の訪問体験活動

町営の特別養護老人ホーム「天王園」や「三丘保育園」



安全運転お願いしまーす。  
(鶴の交通安全マスコット配布)

(ウ) 生徒会や家庭クラブのボランティア活動  
国道2号線, 町の社会福祉協会, ふれあいセンター, 「なべつる園」等

(エ) 個人によるボランティア活動  
県立田布施養護学校, デイケア施設

キ 継続の状況等

いずれの活動も, 数年間継続して取り組んできたもので, 年度末に反省や検討を加えながら発展させている。町内のクリーンアップ活動は, 平成10年度に始められ, 12年度から本校の特色のある学校行事の一つとして位置付け, 継続して行うことにした。また, ゴミの分別収集も, 平成13年度から町の分別の方法が一部変更されたのに伴って手直しをし, 教室に4つのゴミ箱を置いて, さらに徹底をすることにした。



ぼくにもできるよ。(保育園の訪問)

## 2 活動の実際

### (1) 事前指導

ア 豊かな心・他人の心を思いやる精神の涵養のために, 講演会を催したり, 社会福祉等に関係した作文・標語等の募集への応募を呼びかけたり, 全校集会を開いてボランティア活動の意義の認識と連携意識を深めるなど, 日頃から様々な機会を捉えて積極的に働きかけてきた。

イ 町内クリーンアップ活動では, 事前の準備として, 生徒会活動の厚生委員が中心となり, ゴミの収集場所での分別の方法等を協議して作業の計画を作った。各クラスでは, 事前のホームルームで全員が班や場所の割り当てや拾ったゴミの処理方法などを話し合った。

ウ ゴミの分別収集では, 各クラスで分別収集したゴミを集める納屋(ゴミステーション)を設置した。スチール製で, 動物が荒らさないように扉に施錠をする。年度のはじめに, 厚生委員が中心となって, 全校集会で分別収集について説明をし, 各クラスに分別収集の分類表を掲示して指導している。

エ 特別養護老人ホーム訪問や保育実習は, 家政科や総合的な学習の時間の授業の一環であるが, 事前の準備についても, できるだけ生徒にも役割を与えるように努めた。

オ 特別養護老人ホームの訪問では, 総合的な学習の時間において, 施設訪問に向け, 事前の準備として, 車椅子に乗って校内を移動して障害となるところを見つけたり, 大人用のおむつを使っておむつ交換の体験など, 70分4回の授業の学習を行った。

カ 保育の実習では, 事前準備として, 訪問して乳幼児と遊ぶための遊具を作成した。

キ 養護学校のサマースクール参加については, 生徒会や家庭クラブで, 夏休みに養護学校で行われる行事の紹介をし, 積極的に参加を呼びかけている。

### (2) 活動の展開

ア 地域や校内の美化・清掃体験活動

平成13年度「総合的な学習の時間」  
における「高齢者福祉」の講座の内容

第1回目(6月2日)

車椅子体験

第2回目(6月16日)

おむつ体験

第3回目(6月30日)

学習のまとめ

第4回目(10月20日)

高齢者とのコミュニケーション

第5回目(12月1日)

天王園訪問

#### (ア) 町内クリーンアップ活動

本校生徒全員が参加する活動で、平成12年度から学校行事として取り組んでいる。平成13年度は、11月17日(土)に、全クラスが各クラス8班(1班を5人程度)に分かれ、クラスごとに担当区域に移動して清掃活動を行った。

体操服に着替えてグラウンドに集合し、諸注意の後、クラス単位で9時30分に出発した。

各班は燃えるゴミ用と燃やせないゴミ用、ピン・缶類の3種類(3枚)のゴミ袋を携帯して、担



ここにも空き缶が。(クリーンアップ活動)

当場所に移動、本校から4kmまでの広い範囲で清掃の奉仕活動をした。活動時間中は、班単位で終始行動をともにし、単独では行動しないこと、また、交通安全には十分に留意し、歩道を歩行することを徹底した。

約2時間にわたって担当区域で清掃の奉仕活動を行い、12時30分に全員が無事本校に帰着した。臨時にゴミステーションの近くに設けたゴミの収集場所には、ゴミの回収袋の200余袋の山ができた。

#### (イ) 地下道の清掃ボランティア活動

家庭クラブが中心となり、校内からボランティアの有志を募って、30名近くの生徒が集まり、1学期の考査終了後に、学校前の地下道の清掃を行った。約1時間半、雨や排気ガスや付着物などで汚れたタイルやコンクリートを水洗いすると、明るく清潔な地下道が現われ、通学生や地域の人たち、小・中学生からも喜ばれた。

#### (ウ) ゴミの分別収集

町の分別収集の分類に沿って、各教室に可燃物・廃プラスチック・缶やピン・ペットボトルを入れる4つのゴミ箱を置き、クラスで分別を行っている。毎日全員で行う清掃の時間には、ゴミステーションに厚生委員が交代で立ち、各クラスから持ち込まれるゴミの分別収集の徹底の手助けを行っている。

#### イ 特別養護老人ホームや保育園の訪問体験活動

##### (ア) 特別養護老人ホーム訪問

家政科2年生のクラス単位で、町内にある特別養護老人ホーム「天王園」を訪問し、話し相手になったり、介護を手伝ったり、手作りの贈り物を渡すボランティアをしている。また、総合的な学習の時間においても、「高齢者福祉」の講座を選択した生徒たちが訪問して介護体験している。

13年度第1回目の7月12日の訪問では、二人でグループを作り高齢者の部屋を訪問して掃除をしたり話をしたり、手遊びや歌で楽しく過ごす工夫をした。

##### (生徒の感想)

最初は、もっとコミュニケーションがとれないかもしれないと思っていたけど、すごく話げできた。

私たちがずいぶん緊張がとけ、おばあちゃんの肩をたたいてあげたり、腕をマッサージしたり、一緒に歌を歌ったりととても楽しい時間を過ごしました。私が肩をたたいてあげると、おばあちゃんが、か細い手で一生懸命に私の手をギュッと握り締めてくれま

した。そして、「ありがとう」といわれたのです。そのときは本当に涙が出そうなくらい胸がジーンとききました。

#### (イ) 保育実習

家政科3年生の「保育」の授業の一環として、町営の「三丘保育園」を訪問し、紙芝居や自作した遊具を使った遊びを工夫して保育実習をしている。平成13年度は、年長・年中対象には、紙芝居、マラカス、布製の野球グッズを、年少・3歳未満児対象には、ぬいぐるみ、ガラガラ、でんでん太鼓、ジャンピングカエルなどを作り、2～3人のグループに分かれて、自分たちの製作した遊具で対象園児と遊んだ。



「わぁーそうなの～」（天王園で）

#### (生徒の感想)

見ていて飽きない。やっぱりかわいい。

マラカスは鳴らして遊ぶだけだと思っていたのに、高く積んで塔を作ったり、並べてボーリングしたりして遊んでいた。小さい子の発想はすごいなと思った。

#### ウ 生徒会や家庭クラブ、個人によるボランティア活動

##### (ア) 交通安全キャンペーンにおけるマスコットの作成と配布

毎年9月下旬の秋の交通安全運動期間中、町内を通る国道2号線沿いで、生徒会の交通安全委員会が中心になり、家庭クラブが手作りしたマスコットを配布する交通安全キャンペーンのボランティアを行っている。本年度は地域にちなむ鶴の折り紙を作成した。

##### (イ) 養護学校や子供家庭センター・児童クラブへのボランティア参加

毎年多くの生徒が、生徒会や家庭クラブの呼びかけで、夏休み中に近くの養護学校で行われるサマースクールや、町の児童福祉事業「子供家庭センター」や「児童クラブ」にボランティアとして参加している。

(ウ) 家庭クラブで、手作りの小物を町役場を通じて町内の高齢者の方にプレゼントしたり、リングプルを回収して町の社会福祉協議会へ寄付している。

#### (3) 事後指導

- ・ 毎日の校内のゴミの分別収集やリサイクル活動の体験を更に深めるために、LHRで自分たちの身近な環境問題を話題に話し合いをし、日々の実践の継続の大切さを学んだ。
- ・ 高齢者や幼児とふれあい、理解を深める体験をしたことを生かすために、授業で発展させて、自分は何ができるのか、高齢者の生活福祉や少子化の問題等について考えた。

#### 3 体験活動のための体制

##### (1) 生徒の自主性の尊重

それぞれの活動における指導に当たっては、できる限り生徒の自主性を尊重し、多少の時間がかかっても自発的な動きを待ち、個人としての存在感や集団としての役割等を見いだせるようにしたい。生徒会の委員会や家庭クラブなどが、主体的に活動できるように支援している。

##### (2) 学校と町や関係機関との連携

- ・ 町や社会福祉協議会、また、生徒の訪問先である特別養護老人ホーム（天王園、なべつる園）や保育園（三丘保育園）、子供家庭センターなどと十分な連携を図って進めている。

- ・ ゴミの分別回収では、町役場と連携をして、新しくなった分別の方法の説明を受けるとともに、ゴミの回収袋や回収かごの提供を受けた。
- ・ 町内のクリーンアップ活動では、生徒が校外へ出ていく。活動範囲は、国道2号線沿いの危ない箇所もある。教職員も含めた参加者全員がボランティア保険に加入し、万が一に備えた体制を取っている。また、警察に行事の連絡をして、パトカーで巡回してもらい、全員が交通安全にも留意しながら活動しており、これまで一件の事故も無く実施できている。

#### 4 成果と課題

- ・ 生徒会活動、委員会活動などで、生徒主体の活動が徐々に活発化してきている。
- ・ 町内クリーンアップ活動は町の広報誌に掲載されるなど地域から評価され、学校と地域の結びつきが強まった。
- ・ 生徒の心の中に、自然な形で小さな親切を行う気持ちが育ってきた。駅の階段でおばあさんの荷物を運ぶのを手伝ってくれたというような感謝の手紙が何通か届くようになった。
- ・ 夏休み等を利用して、自主的に介護ボランティアや障害者施設のふれあい体験に参加する生徒も多数でてきた。
- ・ 町内のクリーンアップ活動は、生徒の奉仕活動の精神を高めるのに役立っているが、学校行事としての位置付けから、教師側が主体となっている。課題として、ボランティア活動の本来の趣旨を生かした、生徒主体の自発的な活動への展開を図っていく必要がある。

#### 5 今後の取組の方向

- ・ 本校は、今まで体験活動を重視する取組を行ってきたが、更に発展・充実させ、生徒の中から、地域のボランティア活動を担うリーダーが育ってくることを願っている。
- ・ 介護や育児体験は、総合的な学習の時間以外では、今まで家政科の生徒のみが行っていたが、平成14年度からは家政科をライフデザイン科に改編するのに伴って教育課程を改め、普通科の生徒も「家庭介護・福祉」や「保育」の授業を選択できるようにし、普通科・ライフデザイン科を問わず希望者はだれでも授業の中で介護や育児を体験することができるようにした。

#### 【本事例活用に当たっての留意点】

本校の体験活動には、地域の清掃奉仕活動、特別養護老人ホームの訪問などの活動がある。活動事例として挙げられている地域の清掃活動では、事前にゴミの収集場所での分別方法を協議して地域の清掃を行ったり、地下道の清掃が行われたりしており、小・中学生からも喜ばれているという。また、特別養護老人ホームの訪問では、介護の手伝いや歌を一緒に歌うなどの交流を行っている。活動の特色として、事後において清掃や老人ホーム訪問の活動体験をさらに発展させ、教科等で環境問題や高齢者の福祉・少子化問題について考えさせている点が挙げられる。その結果、生徒の心の中に自然な形で小さな親切を行う気持ちが育つとともに、自主的に介護ボランティア体験に参加する生徒が現れているという。

このような活動を行うためには、事前の準備だけでなく事後に行う教科等との関連を図るようになるとともに、校外活動での安全面について十分留意することが大切である。